

「NPOと神戸市の協働研究会」第4回公開フォーラム議事録

日 時 2002年2月12日(火) 18時05分～20時17分
場 所 コミスタこうべ301多目的室
参加者 NPO関係者14名、行政関係者14名、一般9名(合計37名)

はじめに(市民活動支援課:森田拓也氏)

第3回公開フォーラムで委託事業を取り上げた。今回は助成事業を取り上げるが、NPOへの助成事業はあまり事例がない。平成13年1月17日から9月30日まで行った21世紀復興記念事業の中の「神戸2001パートナーシップ事業」(主に芸術文化中心)での事例を取り上げて検証する。司会は、協働研オブザーバーの相川康子氏(神戸新聞論説委員)をお願いした。

【司会】この会は、NPOと行政と一般市民の三者が同じ位ずつ交じってやってきた。お互いに考えていることを出し、考え方の違いに気づく。その中で、具体的に事業委託や補助金という題材を通して、お互いのいい所を生かしながら制度等の問題を洗い出すためのワークショップを重ねてきている。趣旨説明とこれまでのおさらいを、市民活動支援課の平川課長をお願いする。

協働研・これまでのWS概要など(市民活動支援課:平川利用人氏)

- ・ 目的:NPOが新たな公共公益サービスの担い手として不可欠な存在になってくる中で、行政とNPOの協働の必要性が指摘されている。現状は、行政とNPOの価値判断や行動規範が違い、協働を進める原理や方法が手探り。協働の具体的な枠組みをつくるため、昨年6月26日に第1回協働研を開催し同時に設立。
- ・ 1回目(6/26)&2回目(8/7)に、「NPOの強み・弱み」「行政の強み・弱み」をWSで出し合った。これを通じて、NPO・行政・一般市民の相互理解が出来てきた。
- ・ 3回目(11/20)は、様々な協働の方法から、参加者の関心の高かった委託について取り上げた(神戸市がCS神戸に委託した「バリアフリーマップ調査」)。3回目詳細は省略、前回議事録参照

パートナーシップ事業の概要(神戸21世紀・復興記念事業事務局:宮道成彦氏)

- ・ パートナーシップ事業はKOBE2001復興記念事業の中でのイベントを中心とした助成事業。
- ・ 事業費助成(事業費が概ね300万円を超える事業へ総事業費の1/3以内で200万円を限度に助成する)とアドバイス支援(プロのイベントプロデューサーが事業のアドバイスを行う)の二本柱。
- ・ 事務局内で、事業費の2/3を市民団体の負担もしくは別の資金調達が可能かという話があった。
- ・ 11年12月にプランを事務局内で出したが、すぐには理解が得られず12年4月にやっと公募。
- ・ 震災後市民のプロデュース力が活性化していたこと、行政と市民のマッチングファンド、地域のリーダーを浮かび上げさせネットワーク化すること、行政と市民の異なる立場が合わさり実験的に協働することで大きな力が出来ないかということで実施した。
- ・ 実施期間は、13年1月17日から9月30日。事業決定が7月末で実施までにある程度期間があることが他の助成と違い、助成が決まっていることで実施団体は余裕を持って準備できた。
- ・ 対象団体は、実施まで責任を持って遂行できる団体ということで縛りはかけず。
- ・ 対象事業は、市内での実施、神戸や地域の魅力の発信、記念事業開催基本方針に合致する事業。
- ・ 45事業採択で43の実施。ジャンルは、文化芸術20、スポーツ3、国際交流3、福祉1、環境1、地域のまつり10、その他7。対象とならない事業は、常識的な範囲で書いている。
- ・ 募集にあたり、事前に事業助成の利用説明会を1度開催した。提出書類は、助成金交付申請書、団体概要、事業企画書、収支予算書、事業計画スケジュール。助成対象経費も提示。
- ・ 助成の決定方法は、事務局で要件審査。審査委員会にて公開で7月25日に企画事業プレゼンテーション。56団体で、1団体4分程度で書面に無いことの審査。審査委員は、妹尾(21世紀・復興記念事業推進協議会)・原口(NHK)・山口(AM神戸)・村上(サンTV)・喜多野(阪南大)・今井(21世紀・復興記念事業)・日坂(21世紀・復興記念事業事務局長)の7名。
- ・ 審査は項目別に採点(意義・発信・将来性・独創性・実現可能性)し、合計点順に採択。

- ・ 交付予定を先に出すが、事業後、報告の上決定してから助成金を支出。
- ・ 対象団体は、商店街とか愛好家グループとか芸術家とか NPO 法人もあり多種多様。
- ・ 市民プロデューサーと事務局間では関係は出来てきているが横のつながりは乏しいので、昨年 11 月 28 日に 30 人ほど集まり顔見知りになり話をする懇親会の機会をつくった。
- ・ イベントプロデューサーへの相談は 1 件も無く、自前の市民プロデューサーの多さに改めて気づいた。
- ・ 行政側として出来ることとして、広報の支援、窓口として行政内部の調整をした。
- ・ 助成総金額 5110 万円に対し総事業費 3 億 2870 万円。入場料等が 4470 万円、協賛金 6720 万円、その他助成(国・県・民間)3430 万円、広告料・物販等 3340 万円、主催団体自己負担 9800 万円。総事業費の 1/6 助成で、かなり苦労されて自分たちのやりたい夢をかなえられた。
- ・ 助成総額約 5 千万円の財源は、ポートピア'81 財団の基金から。

神戸クラリネットオーケストラの概要と感想（同実行委員会：最所久美子氏）

- ・ 藤井一男氏が神戸・明石で中学生・高校生のプラスバンドのためのクラリネットクリニックをやっていた。藤井氏のもとでその門下生が中心となり、東京でクラリネットオーケストラの活動。震災の年の 2 月に松方ホールでコンサートの予定だったが出来なかった。藤井氏は、いつか神戸でコンサートをとっていた。
- ・ パートナーシップ事業を聞いて、藤井氏にクラリネットで何かやろうといったのがきっかけ。
- ・ 50 人のオーケストラだけでなく、クラリネット愛好家を交えての 200 人編成のオーケストラ。
- ・ 締め切り 1 週間前にラフな計画を提出し、運良く採択されてから本腰を入れて準備。
- ・ 本番を 13 年 9 月 22 日に決め、10 月から毎月 1 回 10 人ぐらいで実行委員会をスタート。
- ・ 赤字が出たらどうするかの資金繰りの問題があったが、前向きにどうやっていくから始めた。楽しく聞いてもらうには、やるほうも楽しまなければいけない。
- ・ 全国へお知らせするために、クラリネットの雑誌に掲載してもらった。HP も立ち上げた。藤井氏の HP へもリンク。3 ヶ月で 100 人集まった。出演者は参加費としてチケット 3 枚(一般 3 千円×3 枚、高校生 2 千円×3 枚)を買う。200 人なければ事業にならないので、団体へも呼びかけた。4 つの団体の参加と一般出演者増で、本番 199 人の参加となった。
- ・ 199 人のクラリネットオーケストラでギネスに掲載予定。神戸の名前が載ることで恩返しに。
- ・ 21 世紀復興記念事業と冠されることは、全国の方への参加呼びかけに大きなメリットになった。
- ・ 広報の支援は、市内では良かった。全国への広報は弱く、自分たちでしなければならなかった。
- ・ 行政内部の調整は、神戸文化ホールの使用料が時間区分(開演を早めたので、午後も本番区分になった)や座席撤去で始めに考えていたよりはるかに高く(2 倍半)なってしまう、神戸市の施設でパートナーシップ事業だからどうにかならないかと事務局にも交渉して頂いたがだめだった。
- ・ 金額が固定されておらず、経費の中で認められる額の 1/3 で上限 200 万円だったが、始めに決まっている方が事業を立てやすかったのではないかと。事業の縮小や拡大の調整が出来るというメリットはあった。どちらがいいのか分からないが、私たちは固定の方がやりやすかった。
- ・ ほとんど参加費でまかなったが、1 社だけ広告協賛をもらった。

神戸パーカッションフェスタの概要と感想（同実行委員会：田平純吉氏）

- ・ 「ジェゴク」はバリ島特有の大きな竹を使った楽器(シロフォンのような楽器)。
- ・ インドネシアの「スアール・アゲン」を招聘し、HAT 神戸のマリンステージでコンサート。
- ・ 10 数年前から打楽器を中心として第 3 世界(アジア・アフリカ・ラテンアメリカ)のパーカッションを日本に紹介して、コンサートだけでなくワークショップ等の交流も行ってきた。
- ・ 招聘には多大な経費がかかる。通常は入場料と公的・私的助成を組み合わせで実現してきた。
- ・ 今回の「海辺のジェゴク」の会場は、現在の HAT 神戸、昔の神戸製鋼協の浜工場跡。震災前は閑散としており、どんなまちづくりが出来るかということで、世界のパーカッションフェスティバルの提案をした。それがきっかけで、神戸製鋼をスポンサーとして地震の前年の 11 月にコンサートを行った。人が来るかという心配があったが、いい企画にはどんな場所でも人が来るという実感を得た。評価も高く平尾氏が製鋼所側担当となり、1 月 20 日にまちづくりの会合を開く予定だったが、地震によって宙に浮いてしまった。製鋼所もスポンサーは無理。地震の年も国の助成金を含めつてをたどり、数打てば当たるで今回まで何とか継続してきた。

- ・ 助成金と入場料の兼ね合いで苦労。アーバンリゾートフェアでベンボスタ子どもサーカスをワールド記念ホールで行い、赤字処理で大きな勉強をした。その後は、実行委員会の中心メンバーで財政面を負う。他の人は、赤字には関わらずマンパワー等で関わってもらったようにした。
- ・ 今回は本事業で提案が認められ第一歩が踏み出せた。早い目に事業決定が出来、神戸市の事業の一環ということで動きやすく PR もしやすかった。他の助成が取れなかったのが大きな誤算。要望として、NPO 的な事業(一定の基準)では会場使用料の減免とか、今回の会場は無料でなければならないという縛りがあったが、2000 円までの入場料ならいいとかの基準を設けてほしい。
- ・ 助成金交付方法は、実行前に半分なり 1/3 なり支出して頂けると非常に助かる。企業協賛等も実行後でなければ支出して頂けない。当日までにも支出があるが、支払いを先延べしている。
- ・ 全国規模の PR で強力なものがあれば良かった。

会場の件での補足説明(神戸 21 世紀・復興記念事業事務局:井戸充茂氏)

- ・ 会場の件では、事務局ではパートナーという立場で行政側に話しに行った。規則や要綱でだめなものはだめと分かっているが、なんとかならないかと一緒に話をした。
- ・ NPO といっても一般使用になるが、減免制度がいろいろあるので柔軟にしてもらえたらと思う。

当事者間としてのコメントと、会場からの質問と意見など

- 【田平】会場は行政の方から紹介して頂いて助かっている。情報をもろうことはありがたい。
- 【最所】パートナーシップ事業ということで、非常に仲良くやらせてもらった。会場の件では、神戸市の施設であり神戸市のパートナーシップ事業であるのもう一步踏み込んでいくのが課題。
- 【質問(NPO)】事業助成の考え方で、総事業費の 1/3 で 200 万円を限度としたのはなぜか。A から C 表示があり、C 表示では 1/6 になる。赤字スタートで、参加団体の自己負担をどう考えるか。
- 【宮道】A(100%)、B(75%)、C(50%)の補助率は後から決まった。予算が決まっており、満額助成では 20 数団体しか助成できない。たくさんの団体に助成したいということで補助率を考えた。総事業費は 4.5 億円(予算ベース)で、助成総額が充分ではなかったのかもしれない。事業を見直して、当初の計画より縮小されたところがいくつかあり、最終的には総事業費 3.2 億円になった。
- 【井戸】ぜひ事業を実施してほしいという内容がたくさんあった。助成が無くて実施できないのは申し訳ないということで、審査委員会では出来るだけ多く拾えないかという意見が出た。予算の制約があるので、減額を含め検討した結果。減額して民間側により多く負担してもらおうという考え方ではなく、1 年以上の期間があり事業規模の再検討を含め、事業を共同でやって頂きたいのでどうしたらいいかと投げ返させて頂いた。1 件だけ出来ない(警察関係)という返事があった。
- 【相川】審査員からこれだけは入れたいという要望があり、金額の制約で減額したということか。
- 【井戸】50 数団体の公開プレゼンテーションを行い、熱気が審査員に伝わった。その結果、数多く採択するという方向で調整させて頂いた。
- 【宮道】不十分な面は、掌握している他の助成制度の紹介や相談に応じる等お手伝いさせて頂いた。
- 【最所】プレゼンの時に説明があればよかった。C の方はショックだったと思う。
- 【相川】兵庫県のコミュニティビジネスの起業助成は、初年度上限 300 万円だったのですが、最終に残った 2 団体がじゃんけんで決めた。いいのが悪いのかまだ議論が尽くされていない話。
- 【質問(NPO)】田平さんは知らなかった情報を知らせて頂いたのが良かった。最所さんは会場費で NPO がやっているから減免措置をしてほしかった。そうしたちょっとした融通が出来るのかどうか。特定の団体にということではかなわんという気がするが、もっと一般化すればいいと思う。人間関係を結び円滑にする要素があり線引きし難い。このことについての判断を頂きたいのが一つ。もう一つは、報告を聞くと非常に良かったという評価だが、市民が年間 1~2 週間フリーに使える会場の提供の仕方を考えてほしいが、この成果を今後どういうふうに進展させていくのか。
- 【田平】未公開は言い方によってはインサイダー的な情報だが、私が知らなかったのだと思う。以前から安い宿泊所はないかとこんな助成は無いとかかしきりに相談していた。それで確たる情報ではないがひょっとしてということを教えて頂いた。
- 【井戸】行政情報がどこまで公開されているかという話。分かっていることはお教えする。話してはいけないことは話さない(今だったら予算)。後は、一般に知られている情報を世間話の中でしていく。ちょっとした融通というより、行政マンはより多く情報を知っている。

- 【意見(NPO)】情報系の NPO だが、情報を取るのに強いところと弱いところがある。民間の NPO が直接の現場を持たずに全国的な広い情報を発信している。今の話では、融通の範囲であればいいのだが、特定の団体への強い便宜供与となると相当の理由が無ければまずい。線引きは難しい。
- 【意見(行政)】基本的に公の施設なので、特定の団体に便宜供与は許されない。文化ホールにしろしあわせの村にしる、制度が無ければ公務員はそういうことは出来ない。公務員で一番気にするのが、公平・平等なので、もしそういうことがあったとすれば変わった公務員だと思う。
- 【相川】ありがたいのは、そういう公務員だと思う。会場費は、NPO や公益的な目的を想定していない時代の規則で運用しているから不都合が出てきていると解釈するほうがいいと思う。
- 【意見(行政)】二つ目の質問だが、復興記念事業で文化ホールもホール開放事業をやっている。2月に公開で募集した。たくさんの応募があり審査会を開き、最後は抽選となった。地域のステージ(地元の団体対象)ということで、区民センターや勤労市民センターに協力してもらい開放した。来年度はどうか分からないが、事業として有意義だったという報告は上げている。
- 【相川】今回も一般財源ではない。平常時にどう移していくか。まだ評価の話が出ていない。
- 【最所】会場費が高くなった分、出演料や作曲料を話して勘弁してもらった。
- 【意見(NPO)】会場費の問題は、会場費のコストがかかり過ぎているのが大きな問題。コミスタもこのまま高い管理費でいいのか。市民サミットにも協働研にもコミスタ側から参加者がいない。
- 【相川】NPO や市民がいいことをしているということで専門家が無償で協力している。復興の看板が取れた時にどれだけの人が協力をしてくれるか。出演料等、ちゃんと払うのが本来のやり方。
- 【田平】おっしゃる通り。本来は、新しい社会をつくるためのきっかけだと思う。神戸市民の市民意識、やるほうの意識も高めないといけない。いつまでも市役所からお金をもらうということではなく、復興記念事業では無くオープンな形でシステムをつくっていく必要がある。こういうセクションを継続して残し、そこに違う人たちを入れて市民との交流の場を体験し意識を変えて頂く。
- 【井戸】最後ということで発言するが、市民プロデューサーが大勢おられ、その層の厚さに驚いた。能力も高く、市民が前面に出て後で事務局が支えるのがいいというのが感想。期待もしている。
- 【宮道】要望が出てからしか動けなかったという反省もある。役人として動いていると壁にもあたりますし、コーディネーター的なセクションが求められていると改めて思った。
- 【最所】43 事業だったが、この中から半分でも継続的にやれば他都市と違う文化的なまちになる。

司会のまとめ(相川康子氏)

- ・ 評価点は、準備期間の長さ。情報提供。信用保証。公開プレゼンで審査員を別にした。ネットワーク構築。改善点は、補助率が後から付け加わった。お金が清算後になる。
- ・ 従来のルールではうまくいかないのが、NPO 等を想定したルールづくりが求められている。NPO の声も聴こうとする職員を増やす。NPO も人材を育成しなければいけない。

「市の事業委託・助成の考え方」(市民活動支援課：森田拓也氏)

- ・ 行政が公益的団体へ補助・助成する場合は、「公共公益性があるか」「行政が監督しているか」の2点が必要。法体系上、これは動かせない。今回の事業は、公共公益性についてはどうか。
- 【田所】定義の問題もあるが、神戸の文化度を高めた。他都市に無いものをつくり、観光客も呼び込めた。神戸の復興の状況を見てもらえた等自負している。
- 【相川】このテーマで公開ワークショップをやったほうがいいので切ります。次回提案はないか。
- 【発言(NPO)】融通や便宜供与という言葉が出ている。隠すと癒着だが、オープンにすれば創造的ないい事業が出来る。ルールがあると思うが、便宜供与についての協働を事例として行いたい。
- 【発言(NPO)】今日は評価の話が薄かった。神戸の魅力のアピールするユニークな事業の実現は出来たと思う。まちのソフトとして残るものの掘り起こしは出来たのか。事業規模300万円超の問題。路地裏の事業があってもいいのではないかと。評価の指標は数値的なものですべて片付くのか。

まとめ&協働研世話人からのコメント(協働研世話人：今田忠氏)

民間の助成をやってきており興味深く聞いた。満額でも 50%助成でもいろんな考え方があってもいい。もっと多くの助成機関があればいい。市民基金・KOBÉ も充実してくればいい。原理主義的な立場は取らないほうがいい。ネットワークが広がっていくのが大事。